

「びわ湖の日」についてのアンケート結果

県では、より多くの県民の皆さまが、改めて琵琶湖へ想いを寄せ、様々な活動が活発になるなど、琵琶湖とのつながりを深めていただくために、「この夏！びわ活！」をキャッチフレーズに、「びわ湖の日」を盛り上げる取組を実施しました。

皆さまから率直な意見をいただき、「びわ湖の日」の今後の取組の参考にさせていただくことを目的として、アンケート調査を実施しました。

★調査時期：令和2年9月

★対象者：県政モニター 399人

★回答数：345人（回収率86.5%）

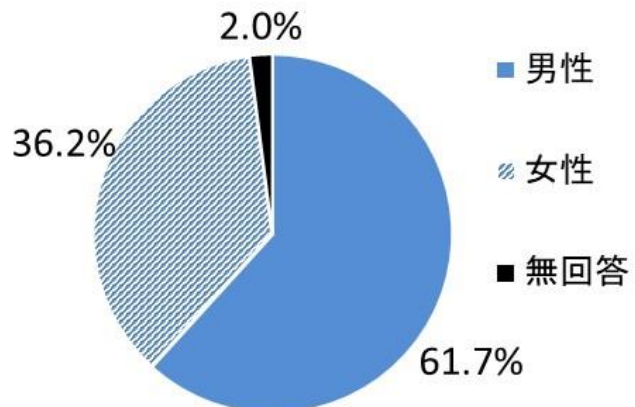
★担当課：琵琶湖環境部環境政策課

（※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。）

【属性】

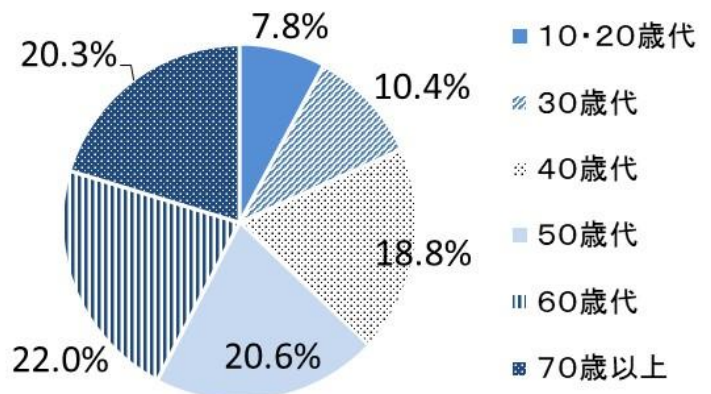
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	213	61.7
女性	125	36.2
無回答	7	2.0
合計	345	100.0



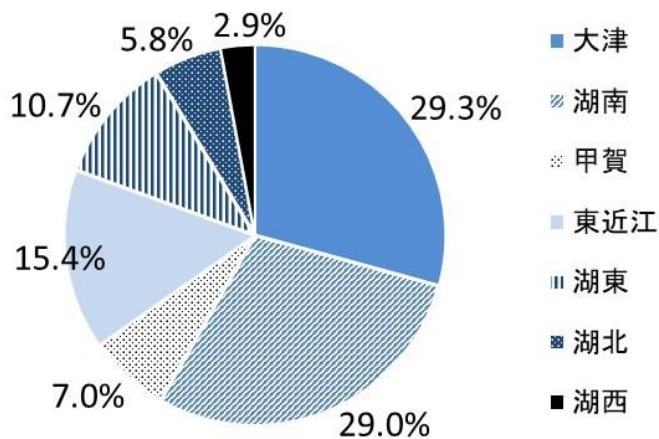
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	27	7.8
30歳代	36	10.4
40歳代	65	18.8
50歳代	71	20.6
60歳代	76	22.0
70歳以上	70	20.3
合計	345	100.0



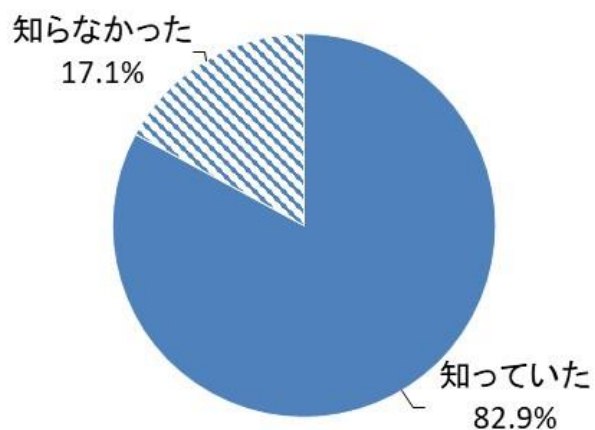
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	101	29.3
湖南地域	100	29.0
甲賀地域	24	7.0
東近江地域	53	15.4
湖東地域	37	10.7
湖北地域	20	5.8
湖西地域	10	2.9
合計	345	100.0



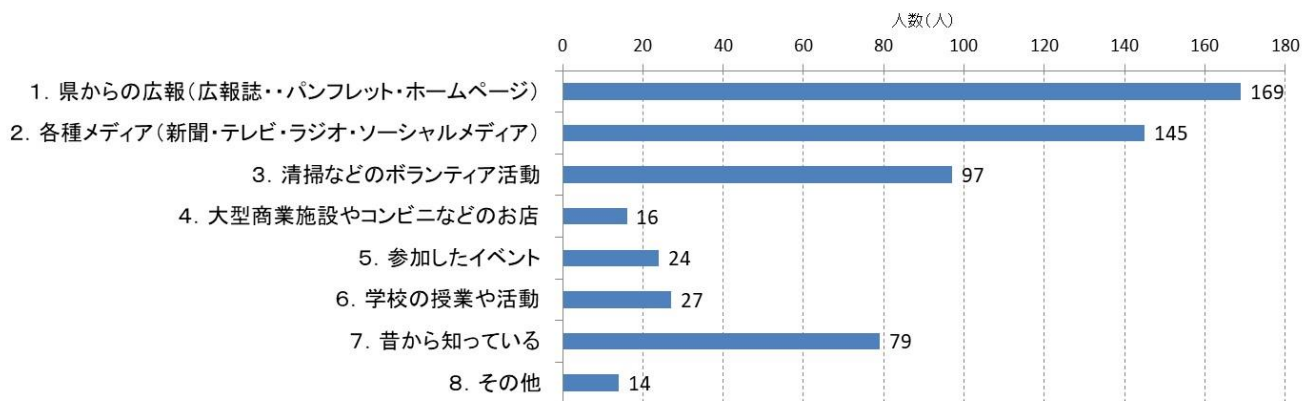
問1 7月1日が「びわ湖の日」であることを知っていましたか。(回答チェックは1つだけ。
n=345)

項目	人数(人)	割合(%)
知っていた	286	82.9
知らなかった (このアンケートで はじめて知った)	59	17.1
合計	345	100.0



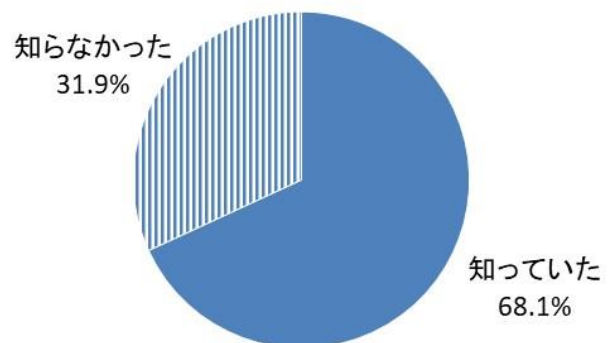
問2 問1で「1. 知っていた」を選択された方にお尋ねします。「びわ湖の日」をどのよう
なきっかけで知りましたか。(回答チェックはいくつでも。n=286)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 県からの広報(広報誌・パンフレット・ホームページ)	169	59.1
2. 各種メディア(新聞・テレビ・ラジオ・ソーシャルメディア)	145	50.7
3. 清掃などのボランティア活動	97	33.9
4. 大型商業施設やコンビニなどのお店	16	5.6
5. 参加したイベント	24	8.4
6. 学校の授業や活動	27	9.4
7. 昔から知っている	79	27.6
8. その他	14	4.9



問3 「びわ湖の日」は、「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」が施行された日を
記念して定められています。当条例は、1977年(昭和52年)5月に大規模に発生した淡水
赤潮の原因の一つが、合成洗剤に含まれているりんに起因することがわかり、県民が主体と
なって、粉石けんを使おうという運動(石けん運動)の盛り上がりなどを背景に施行された
ものです。こうした背景を知っていましたか。(回答チェックは1つだけ。n=345)

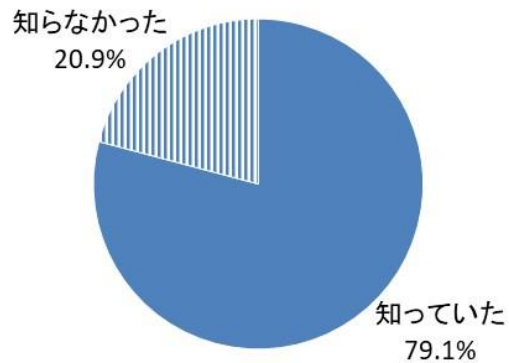
項目	人数(人)	割合(%)
知っていた	235	68.1
知らなかった (このアンケートで はじめて知った)	110	31.9
合計	345	100.0



問4 「びわ湖の日」は「滋賀県環境基本条例」において、環境保全について理解と認識を深め、環境保全活動への参加意欲を高める日として定められています。

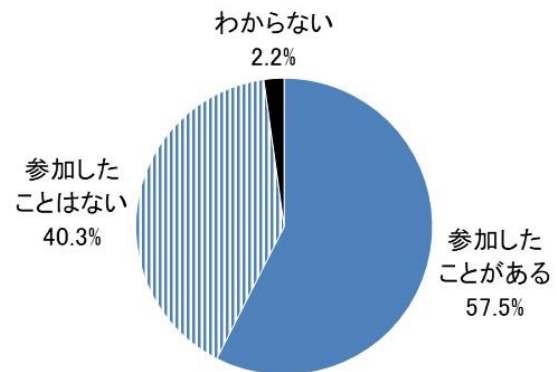
これまで、「びわ湖の日」を中心に、県内一斉に清掃活動が行われてきたことを知っていましたか。（回答チェックは1つだけ。n=345）

項目	人数(人)	割合(%)
知っていた	273	79.1
知らなかった (このアンケートで はじめて知った)	72	20.9
合計	345	100.0



問5 問4で「1. 知っていた」を選択された方にお尋ねします。これまで、「びわ湖の日」の一斉清掃活動（びわ湖をきれいにする運動）に参加したことがありますか。（回答チェックは1つだけ。n=273）

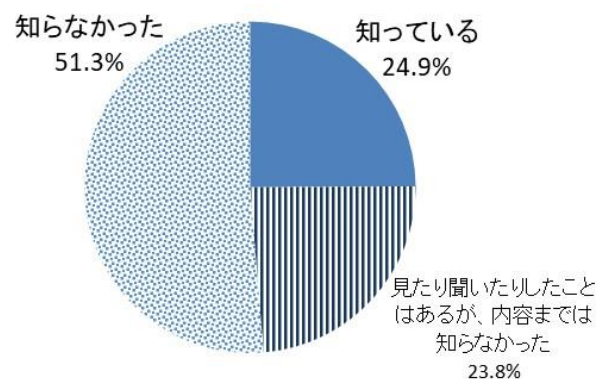
項目	人数(人)	割合(%)
参加したことがある	157	57.5
参加したことはない	110	40.3
わからない	6	2.2
合計	273	100.0



問6 「びわ活※」を知っていますか？（回答チェックは1つだけ。n=345）

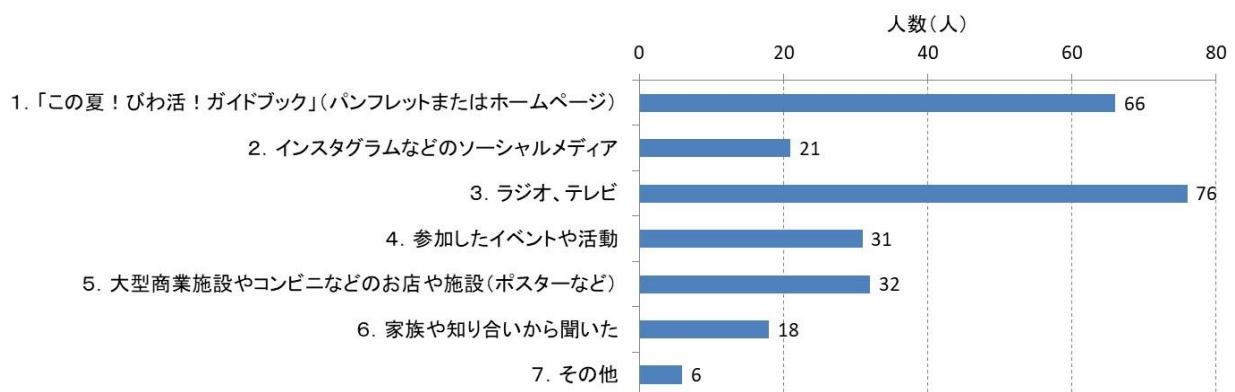
※「びわ活」とは、びわ湖の日（7月1日）から山の日（令和2年度は8月10日）までを重点期間とした、琵琶湖を守る、琵琶湖と暮らす、琵琶湖と親しむ、といった琵琶湖と関わるさまざまな取組や活動をいいます。

項目	人数(人)	割合(%)
知っている	86	24.9
見たり聞いたりしたことはあるが、内容までは知らなかった	82	23.8
知らなかった (このアンケートで はじめて知った)	177	51.3
合計	345	100.0



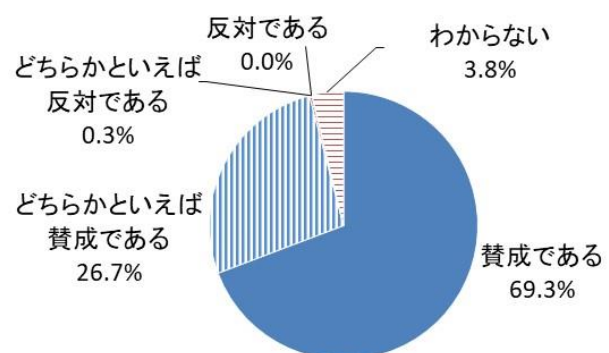
問7 問6で「1. 知っている」または「2. 見たり聞いたりしたことはあるが、内容までは知らなかった」を選択された方にお尋ねします。「びわ活」をどのようなきっかけで知りましたか。(回答チェックはいくつでも。n=168)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 「この夏！びわ活！ガイドブック」(パンフレットまたはホームページ)	66	39.3
2. インスタグラムなどのソーシャルメディア	21	12.5
3. ラジオ、テレビ	76	45.2
4. 参加したイベントや活動	31	18.5
5. 大型商業施設やコンビニなどのお店や施設(ポスターなど)	32	19.0
6. 家族や知り合いから聞いた	18	10.7
7. その他	6	3.6



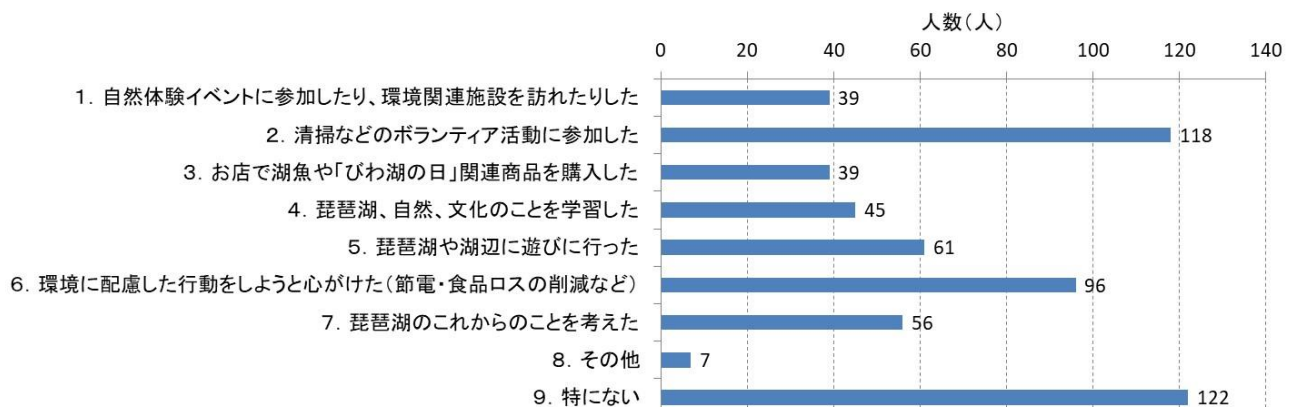
問8 「びわ活」の重点期間(びわ湖の日(7月1日)から山の日(令和2年度は8月10日))を設定して、森・川・里・湖のつながりを意識しながら、琵琶湖に関わるさまざまな取組や活動を推進する考えについて、どのように思われますか。(回答チェックは1つだけ。n=345)

項目	人数(人)	割合(%)
賛成である	239	69.3
どちらかといえば賛成である	92	26.7
どちらかといえば反対である	1	0.3
反対である	0	0.0
わからない	13	3.8
合計	345	100.0



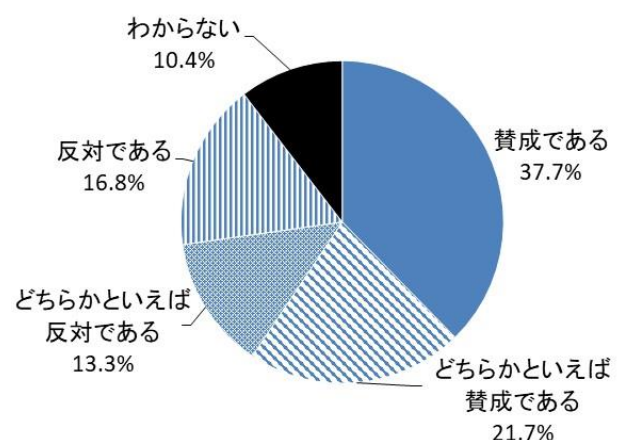
問9 今年、「びわ湖の日」や「びわ活」を意識して関わったことがあれば教えてください。
 (「9. 特にない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも。n=345)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 自然体験イベントに参加したり、環境関連施設を訪れたりした	39	11.3
2. 清掃などのボランティア活動に参加した	118	34.2
3. お店で湖魚や「びわ湖の日」関連商品を購入した	39	11.3
4. 琵琶湖、自然、文化のことを学習した	45	13.0
5. 琵琶湖や湖辺に遊びに行った	61	17.7
6. 環境に配慮した行動をしようと心がけた(節電・食品ロスの削減など)	96	27.8
7. 琵琶湖のこれからのことを考えた	56	16.2
8. その他	7	2.0
9. 特にない	122	35.4



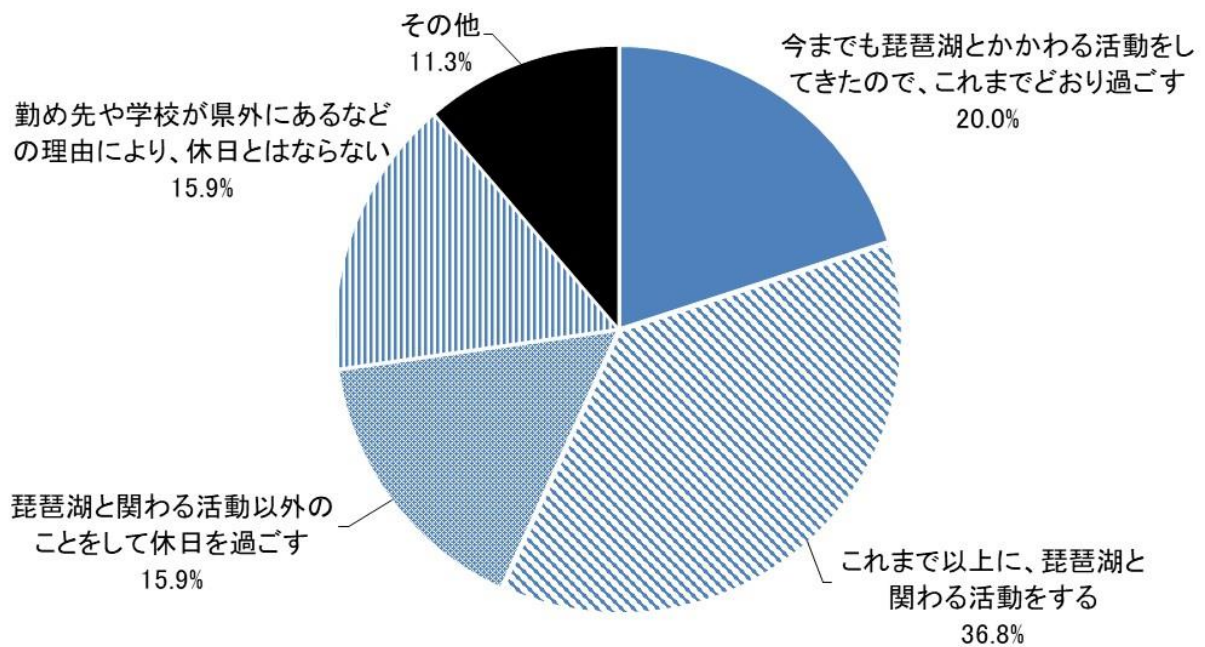
問10 7月1日「びわ湖の日」を県内において休日とすることについて、あなたはどのように思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=345)

項目	人数(人)	割合(%)
賛成である	130	37.7
どちらかといえば賛成である	75	21.7
どちらかといえば反対である	46	13.3
反対である	58	16.8
わからない	36	10.4
合計	345	100.0



問 11 7月1日「びわ湖の日」が県内において休日となった場合、どのようなことをして過ごしますか。(回答チェックは1つだけ。n=345)

項 目	人数(人)	割合(%)
今までも琵琶湖とかかわる活動をしてきたので、これまでどおり過ごす	69	20.0
これまで以上に、琵琶湖と関わる活動をする	127	36.8
琵琶湖と関わる活動以外のことをして休日を過ごす	55	15.9
勤め先や学校が県外にあるなどの理由により、休日とはならない	55	15.9
その他	39	11.3
合計	345	100.0



問 12 7月1日「びわ湖の日」が県内において休日となった場合、良いと思われることがあれば教えてください。(抜粋)

- ・琵琶湖の素晴らしさを県民が再認識するよいきっかけになる。
- ・「びわ湖の日」が確実に県民に浸透する。びわ湖のための活動が活発化する。
- ・「びわ湖の日」を意識することで、環境保護について考える機会となる。特に子ども達にいい影響を与える。
- ・家族で琵琶湖に訪れることができる。
- ・「びわ湖の日」が休日になって、県民が琵琶湖に感謝して、自分たちがそれぞれに思う琵琶湖とのふれあいが出来たら、滋賀県はもっと活力が溢れてくると思う。
- ・自治会を通じて行う一斉清掃により多くの人に参加できる。朝の清掃だけでなく、その日の違う琵琶湖とのかかわりを企画できる。
- ・びわ湖での行事や、各種イベントが企画され、滋賀県への関心が高まって、各方面で経済活動が活発になり、潤うと思う。
- ・県産品等の販促その他イベントが開催されて周知が図られる。
- ・地域の絆がつよまる。
- ・滋賀県の知名度が上がり、県民意識が向上する。
- ・「びわ湖の日」にお祭りやイベントができる。全国的に注目を集められる。
- ・県民だけでなく他府県でも知られるようになり、県の琵琶湖に対する基本的な姿勢、取り組みが評価して頂けるのではないかと。

問 13 7月1日「びわ湖の日」が県内において休日となった場合、不都合なことがあれば教えてください。(抜粋)

- ・県内は休日でも県外は休日ではないので、家族内に県内にも県外にも通勤・通学する者がいれば、同じ家族内で休日になる者とならない者が出てくる。
- ・京都、大阪と経済的な結びつきが強いことに対し、滋賀県だけが休日となると経済活動上の不都合が生じることが危惧される。
- ・学校は休むことができても、企業が休日となることは難しいと思う。
- ・休日を増やしてもサービス業や運輸業は休めない。
- ・基本的に就労日数が減数される以上、収入が減る人がいる。
- ・全ての業種が休めるわけではなく、行政組織は必ず休むとなると生活は不便になる。
- ・家庭に子どもや要介護者などがいる場合、仕事が休日であれば問題ないが、そうでないと難しい。
- ・共働き家庭が多くなった現代、「学校が休み」＝「子供たちがびわ湖活ができる」につながらないので、平日休みになるなら子育て中の働く親にとっては厳しい気がする。
- ・学校などは、コロナのせいで休校が続く大変な状態なので、これ以上、休みを増やす必要はないと思う。

- ・休みになると学校等で行っていたびわ湖活動がなくなってしまう。
- ・活動に対し、強制参加は好ましくない。
- ・意識の高い人は、意味を考え掃除など有意義な活動に費やせるが、そうでない人は、一休日というだけになる。
- ・休日にしなくても、学校や職場で、その日を琵琶湖の現状とこれからを学ぶ日にすればよいのではないか。
- ・現在のコロナ禍の影響で学校、その他色々な場所、場面で中止、休業、閉鎖等が行われている状況下で、びわ湖の日を休日としても活動が制限されるのでは。
- ・コロナ禍で、一斉清掃や、一斉に動くことが難しいので、期間を設けて、いつ参加してもよいようにするのが望ましいかなと思う。

問 14 「びわ湖の日」に関して、今後、県、事業者、民間団体等に対して期待することなどがありましたらお聞かせください。（抜粋）

- ・あらゆる場所で、「びわ湖の日」に関する意識が高まるように、ポスターなどで啓発をしてほしい。
- ・学校や職場や地域で、びわこの環境を学ぶワークショップや研修をしてほしい。
- ・「びわ湖の日」にあわせて無料リーフレットなど発行して、全ての県民が琵琶湖に対して興味を持つようなことはしてほしい。
- ・学校教育を通じた若年層への琵琶湖に関する歴史や取り組みに関する周知を進めてほしい。
- ・県外にも「びわ湖の日」について周知し、特に京都・大阪などびわ湖の恩恵を受けている地域にも広める。
- ・積極的に琵琶湖に関する情報を発信していただくことや学習、イベントを行ってほしい。
- ・びわ活イベントは、物づくりや健康づくりにつながる体験が多く、とても魅力を感じる。
- ・県をあげて各地でスタンプラリーや琵琶湖で獲れる食材を使ったイベントなどがあればよい。
- ・県内に事業所を置く企業に対しては、もっと啓発活動を行う必要がある。
- ・琵琶湖の清掃活動を特定の時間場所でおこなっているが、場所の特定はせず、時間は幅を持たせて、活動記録の写真をUPすることで参加したことになれば、もっと参加者が増えると思う。
- ・滋賀県だけでなく、淀川水系にある自治体にも参加を呼びかけるべき。
- ・びわ湖の環境保護という観点からの取り組みならば、年に1回の記念日頼りなどあてにせず、日々取り組まなければならないことだと思う。
- ・「びわ湖の日」を、7月1日の1日だけに固定しないで、例えば、7月1日～7日の1週間にして、「びわ湖について考える週間」とする。その期間、琵琶湖博物館を中心にして、セミナーやイベントを開催する。
- ・湖魚の美味しさのアピールを今後もっとしてほしい。
- ・滋賀県のスーパーでもびわ湖の日の宣伝を積極的にしている。環境に配慮した商品や滋賀

県の商品をPRすることにつとめてほしい。

- ・インターネット通販「びわ湖の日」特集を作り、滋賀産品を輸出（国内・外）し、経済を活性化して欲しい。
- ・県外の人に「びわ湖の日」メニューを提供し、滋賀県に来県するきっかけを作ってほしい。
- ・特に若い層は赤潮などのことは知らないと思うので、県内の原料を使ったりしたコンビニ製品など目の触れるところからアピールするのがよいと思う。
- ・スーパーでもこの日は滋賀県の琵琶湖の水で育った野菜やお肉を優先して使えるように考えてみるなど。
- ・びわ湖の日は、県内のあらゆる店舗の買い物が安く買え、県内のあらゆる公共の施設が無料で使用できれば、県民、他県民に喜んでもらえると思う。
- ・子ども会などを通じて地域の子どもに琵琶湖に関するイベントを企画したい。
- ・事業所ごとに年休消化を促し、びわ活期間を期間として盛り上げていく必要がある。休暇は社員の健康につながり、消費喚起にもつながる。